

4 ホーン岬の靈歌 その2

ジェイクはよ うす汚ねえスペイン小僧で 船長のあごに一発くらわしやがった
船長は起き上がりざまに 鉄の索止め栓^{ビレイピン}を掴んで奴をぶちのめし
奴はカチコチの鉄錆びみてえな死体になってよ なんともひでえ姿さ
俺たち奴を麻袋にぶち込んで魚にくれてやったのさ
ちようど俺たちが船出したすぐ後のこった 5

ジョシーはよ ^{トップスル}中檣帆の帆桁から滑り落ちて 背骨は碎けて血まみれさ
(てのも 悪ふざけが過ぎて檣頭横材^{ジャック}から手え離れたせいだ)
俺たち奴の碎けた死体をぼろぼろの帆に包んで 石を詰め込み
「主が召されたもうた」なんつって 奴を海^{デヴィー・ジョーンズ}の悪魔にくれてやったのさ
ちようど俺たちが赤道を超える前のこった 10

ジョーはよ 錆びたプレートを削ってたんだ 甲板にしゃがんでさ
夢中でやってたら 太陽がずっとやつの首を照りつけるもんで
とうとうばたっと前のめりに倒れちまって 木槌が手から滑り落ち
熱帯性熱病^{カレンチュア}にやられて釘みたいにくたばっちまった それがジョーの最期さ
ちようど俺たちがラプラタ川に着く前のこった 15

残りはみんなそこいらの水夫たち ある時ひでえ嵐にあってな
揚げ索^{ハリヤード} 帆脚綱^{シート} 下隅索^{タック}とそれぞれ持ち場について 「帆をたため 取り掛かれ」と一声
俺たち荒波に揉まれても持ち堪えようとしたんだが ついには忌々しい呪いめ
甲板が剥がれ 傾き 沈んじまった それが俺たちの最期さ

俺たち暗く冷たい海で 船の残骸やらに囲まれ 20
ビルは溺れちまったし トムは残忍な鮫の野郎に食われちまった
郵便船がハリーと俺を助けてくれたんだ (敬虔な祈りが届いたんだな)
そんで俺はここブエノスアイレスの港で長いことうろつき回ってるってわけさ

俺はオロヌーク号に乗って家に帰るのさ 失敬したボロを着て
遺棄英国船員としてよ 芋の皮剥きでもやって日銭を稼ぐしかねえ 25
もしもだ 俺がプリンス波止場に辿り着き その地にこの足を着けられたなら
俺はぜってえそこから動かねえ もう二度と海になんか出ていくもんか